

## 東佐賀病院

基本理念 <地域の病む人々に常に寄り添い安全で質の高い医療を提供し信頼・安心していただける病院をめざします>

### 病院紹介文

当院は、JR長崎本線中原駅下車南へ15分(1.4km)の所にあつて、広大な敷地を有し環境には最適の地であります。結核病棟30床、重症心身障害児(者)病棟165床のセーフティネット部門と一般診療部門140床(うち感染症4床)が混合する複合型病院であり、佐賀県の結核最終拠点病院です。重症心身障害児(者)病棟は、九州管内で最大規模の病床数を有し、一般病棟と並び当院の一翼を担っています。140床を有する一般病棟は、平成27年度より急性期病棟80床(うち感染症4床)、回復期である包括ケア病棟60床に分割されました。佐賀県東部医療圏で唯一の地域医療支援病院であり、救急医療においても第二次救急医療施設として重要な責務を果たしています。第5類となった新型コロナウイルス感染症に対してWith コロナの下、佐賀県東部の感染症指定医療機関として引き続き患者受け入れを行うなど重要な役割を果たしています。

### 【施設概要】2023.7.1(データは2022年度実績)

1. 所在地 〒849-0101 佐賀県三養基郡みやき町大字原古賀7324
2. 特徴 胸部慢性呼吸器疾患(佐賀県結核医療の最終拠点施設)、小児慢性疾患、重症心身障害児(者)、内分泌代謝異常、慢性肝疾患、各種疾患リハビリ・デイケア、第二次救急医療、佐賀県感染症指定医療機関
3. 診療科 15診療科  
内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病内科、アレルギー科  
リウマチ科、小児科、外科、整形外科、リハビリテーション科、放射線科  
歯科、眼科、肝臓内科  
病床数 335床  
(一般)1病棟、包括ケア病棟、3病棟;170床  
(結核病床30床、感染病床4床含む)  
(重症心身障害者病棟)11病棟、12病棟、13病棟;165床
4. 薬剤師数(薬剤師定員7名)  
薬剤部長1名、副薬剤部長、主任2名、薬剤師3名、助手1名
5. 主な業務  
(ア)調剤 入院 35600枚/年、外来 1920枚/年(院外処方率87.7%)  
(イ)注射 入院 14480枚/年、外来 3420枚/年  
(ウ)薬剤管理指導件数 1590件/年(133件/月)別掲:402件(包括ケア病棟)  
(エ)無菌製剤処理料 I;77件/年(うち閉鎖式使用0件/年)、II;295件/年  
(オ)外来化学療法加算 0件/年(化学療法は実施しているものの施設基準満たさず)  
(カ)病棟薬剤業務実施加算件数 3757件/年(313件/月)  
(キ)病棟薬剤業務 実施(実施病棟数 2:1病棟及び3病棟)

(ク)チーム活動 ICT/AST (感染対策向上加算1・指導強化加算)  
NST (栄養サポートチーム加算あり)  
褥瘡対策チーム、糖尿病療養指導チーム  
心臓リハビリチーム、骨折撲滅予防チーム

6. 特徴的な業務 包括ケア病棟での積極的な薬剤管理指導業務・持参薬確認  
退院時カンファレンスへの参加 (包括病棟の患者問わず)  
近隣の保険薬局薬剤師の退院時カンファレンスへの参加を促すための連絡  
を積極的にするなどの協力 (薬薬連携の推進)

7. R4年度の取り組み 薬剤部として新型コロナ感染症治療への継続的な関与  
退院時カンファレンスへの積極的参加・連携ツールの作成  
診療に影響を及ぼさない事を目的とした医薬品の確保  
院内フォーミュラリーの開始  
重症心身障害病棟で実施した臨床研究論文の投稿と掲載

8. システム・設備

項目	有・無
電子カルテ	○
自動錠剤分包機	○
散剤監査システム	○
水剤監査システム	○
散剤分包機	○
安全キャビネット	○
クリーンベンチ	×

9. 目標 (2023年度)

令和5年度病院目標

1. 通常診療の再生に向け総力をあげて注力する
2. 徹底した医療安全対策を実践する
3. 良好な病院経営を維持する

令和5年度 薬剤部目標

1. 通常診療の再生に向けた準備と進化

各チーム医療の充実に向けた薬剤部門からの支援強化

地域医療支援病院の特性を活かし、良質な医療の提供につながる薬薬連携の推進

2. 医療安全対策のさらなる強化

薬剤部内の業務見える化 (掲示) を図りリスクマネジメントを強化する。

他部門での医薬品適正使用につながるよう医薬品情報の定期的な情報発信を行う。

医薬品に関する副作用情報、プレアボイド報告を徹底し、院内での情報共有を図り再発防止に活かす。

3. 薬剤関連の診療報酬アップを目指した業務改善

病棟薬剤業務の充実及び薬剤管理指導件数をアップする。

後発医薬品使用体制加算 1 の算定維持及びフォーミュラリー定着を図る。

ポリファーマシー解消を目的に新たに薬剤総合評価調整加算の算定を開始する。

4. 不働医薬品の在庫管理を徹底し廃棄金額の節減を図る。

5. 各薬剤師のスキルアップの推進

病院診療に貢献できるスキルの習得と実践（研修への参加、学会等での積極的な情報発信）